

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
主任部長 甲状腺センター長	高野 徹(9月入職)
部長兼糖尿病センター長 兼リハビリテーションセンター副センター長	樫根 晋
医 長	大槻 朋子(4月入職)
医 長	倉敷 有紀子
副医長	伊藤 博崇(4月入職)
医 員	高山 瞳
医 員	酒井 保奈(4月入職)

—概要—

糖尿病・内分泌代謝内科では糖尿病および内分泌代謝疾患患者の外来および入院診療を行っている。外来部門において、糖尿病患者の外来診察および合併症進行予防のための療養指導(糖尿病合併症外来、透析予防外来)を行っている。病棟部門においては主に糖尿病教育入院の担当と院内における他科入院症例の血糖コントロールを担当している。甲状腺疾患についてはバセドウ病、橋本病、甲状腺がん等の甲状腺疾患の診断および治療方針の決定を行っている。

人員としては2019年3月で坂本明子医師および劉勇医師が退職し、2019年4月より大槻朋子医長、伊藤博崇副医長、酒井保奈医師が入職した。また9月より大阪大学より高野徹主任部長が赴任し、同時に甲状腺センター長に就任した。また9月より甲状腺センターと糖尿病センターも発足した。

—実績—

外来診療については、糖尿病、甲状腺、その他内分泌疾患の患者を主に診療し、1日平均42.0人であった。入院総症例数は187症例であった。内訳は糖尿病136例(1型糖尿病11例、2型糖尿病122例、膵性糖尿病1例、ステロイド糖尿病1例、糖尿病合併妊娠1例)であった。内分泌疾患は26例(下垂体機能低下症精査5例、下垂体炎1例、SIADH1例、中枢性尿崩症2例、バセドウ病2例、原発性アルドステロン症精査12例、副腎腫瘍精査1例 低カリウム血症2例)であった。救命救急科入院後の転科症例として 低血糖性昏睡8例、高血糖高浸透圧症候群5例、糖尿病ケトアシドーシス3例、甲状腺クリーゼ1例であった。その他の睡眠時無呼吸症候群4例、その他4例を担当した。入院中の他科依頼による共観については374症例を担当した。

糖尿病患者の外来での療養指導としては糖尿病透析予防指導を58件行った。またフットケア外来も従来水曜日と金

曜日のみであったが、月曜日も指導日とした。フットケア外来における患者指導は1年で178件の指導を行った。フットケア外来においてはフットケアだけでなく、糖尿病療養が困難となった患者の療養相談も行った。

入院から外来への移行を円滑にする目的で、西村認定看護師による退院前および退院後患者居宅訪問を行った。

院外啓蒙活動として、2019年11月16日 当院2階メインホールにて第3回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを行い、多数の市民に参加いただいた。(下写真)

—今年度の成果と反省点—

本年度は人員の増加もあり、外来患者数、入院患者数とも増加がみられた。とくに糖尿病の療養指導の面に関しては、外来における糖尿病透析予防指導、フットケア外来における患者指導いずれも件数、内容ともに昨年に比べ充実がみられた。

—来年度への抱負—

糖尿病腎症重症化予防の取り組みの一環として、当院のような総合病院での患者指導が期待されている。当院で行っている糖尿病透析予防指導をさらに発展させ、地域のニーズに答えるようなシステム作りを行っていきたい。

